
NYアパートのご近所事情

azuki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

NYアパートのご近所事情

【Nコード】

N5676H

【作者名】

azuki

【あらすじ】

NYの大学に編入した女子大生、増田鈴^{ますだりん}。安くて綺麗なアパートに住める事になったはいいが、アパートの住民達は皆出身国が違いうえか、妙に个性的で・・・？鈴とその隣人達が人種の坩堝、NYを舞台に織り成す笑いあり涙ありの物語。

プロローグ

空港に到着した国際便の出入り口から降りながら、その東洋人女性・
・増田鈴は、辺りを軽く見渡した。

新しい、自分の居場所。

新しい、スタート地点。

今まで自分が住んでいた日本の街とは、何もかもが違うと思われる
大都市に憧れが募ると同時に、不安も後を追うようにしてまわり
ついてきた。

ターミナルで荷物を受け取り、ガラガラと引つ張りながら歩き出す。
「今日からここで頑張らなくちゃ・・・まずは不動産会社で住居探
しね」

これからの意気込みを声に出してみる。

その眩きは、たった一人のNY生活が始まろうとしている中で、不
安と寂しさを打ち消すようにして無意識にでた眩きだったのかも知
れない。

アメリカの大都市、NY。

人種の坩堝と異名をとるほど多数の人種が住むこの街に、鈴が引つ
越してきたのには勿論理由があった。

日本で国際関連の勉強をしていた彼女は、大学2年になってからN
Yの大学に編入することになったのだ。

多くの人種が住むNYは、彼女のその勉強の意志にぴったりの土地
だったの言うまでもない。

ここで暮らしていれば、色々な国の人々との交流も期待できる・・・
そう思っ鈴は早速建物の立ち並ぶ都市内へと向かっていった。
まず最初にするべきことは住居探しである。

鈴には贅沢をいうつもりは無かったが、綺麗好きな性分ゆえある程
度清潔なアパートが望ましかったのだ。

万が一、今日でいい物件が見つからなかったら安いカプセルホテルへ向かおうとも考えていた。

しかし不動産屋に入ったとたん、彼女の考えをいい方向に裏切るようにして話は進んでいった。

それもまさに、とんとん拍子に。

「あ、このアパート、家賃も手ごろだし、お部屋も綺麗ですし・・・ここがいいです」

鈴は案内書を手にしながら、“空き部屋あり”と表示されている一軒のアパートの写真を指差して言った。

「お客様、本当にここでよろしいんですね？」

相手の意味深な言葉に、鈴は怪訝そうに首をかしげてたずねた。

「え？それってどういう・・・」

「ああ、いえいえ！なんでもございません！お気になさらず・・・」

相手側の焦ったような笑い声を聞きながら、鈴は手続きを済ませ、礼を言ってその場から去った。

第1話 アパート到着

アパートに到着した。

写真で見たとおり、ある程度大きくて清潔そうな建物だ。

（えっと、じゃあアパートの管理人さんにご挨拶をしなくちゃ・・・）

荷物を引っ張りながらアパートに入ろうとその場から動こうとしたとき・・・。

バイクのエンジン音と思わしき轟音と、その音とともに男性の叫び声が聞こえてきた。

「そのアンタ、どけッッ!!」

「・・・ッ!？」

振り向くと、バイクにまたがった一人の男性がこちらに向かって突っ込んでくる。

「キャッ・・・!!」

鈴が小さく悲鳴を上げると同時に、男性はバイクの車体を何とか斜めにした。

とりあえず衝突は免れたようだ。

「おい!アンタなんともねえか？」

ヘルメットを脱ぎながら、男性が言う。

逆立った短めの金髪に、派手なピアス。

碧い目とその髪の色を見ると、彼は欧米人であることが察せられた。

「あ、だ、大丈夫です・・・」

「ちくしょう、あの馬鹿オヤジ!まだブレーキ直しきれてねえじゃねえか!!」

そう毒づきながら、彼はブツブツとハンドルやらブレーキやらを触り始めた。

「あ、あの、貴方もご無事ですか・・・？」

我ながら野暮な質問をしてしまったと後悔しながらも、鈴は彼を気

遣う言葉をかけた。

「見ての通りピンピンしてらあ」

彼は少々ぶっきらぼうにそう答えた。

「そ、そう・・・ですか。じゃあ、私はこれで・・・」

そういつてアパートのロビーへの入り口に向かおうとした鈴をみた途端、彼はやや驚いたかのような顔をして鈴にたずねた。

「おい！アンタ、もしかしてこのアパートに越してきたのか？」

「は、はい、そうですが・・・」

正直彼のいでたちに距離を感じていた鈴は、オドオドと答える。

「奇遇だな」

彼はバイクを駐車場らしき場所に止めて言った。

「俺もこのアパートの住人だ」

え、と少し驚いた声を漏らした鈴に、彼は不満そうな目を向けた。

「なんだよその目は！別に俺は何も妙な事はしねえよ」

そして、彼は新しい住人である鈴に、アパートの事を教えてくれた。

「あゝ、アパートメントNY、ここは住人全員が違う国から来てんだ、俺は地元のNY生まれのNY育ちだけだよ」

「え・・・全員、違うんですか？」

「ああ。ところでアンタ、名前は？」

「あ、鈴です。リン・マスダ。よろしくお願いします。

自己紹介をして、ペコリと頭を下げる。

「リン・マスダか・・・名前からしてアンタは日本人だな？」

「は、はい・・・」

「俺はデイビット・ブライアンってんだ。アンタはこのアパートで初の日本人だな・・・まあ、住人同士お国が違うから色々苦労するかもだが、頑張れよ」

デイビットは鈴の不安を煽るような言葉を軽くかけると、鈴より先にアパート内に入っていった。

（・・・私のNY生活・・・これからどうなるのかしら・・・）

一人残された鈴は、なんだか言い様の無い不安に立ち尽くしていた。

•
•
o

第2話 隣人達

アパート内の暮らしが始まって一日がたった。

案外早く時間は過ぎるものだ感慨にふける間もなく、家具をなんとか部屋の中に置いていく。

さて、私生活の準備が整うと、次することはいよいよアパートの住人達への挨拶である。

日本人特有の“人間関係に関する敏感な考え方”というものが鈴の中でも働いたのか、とりあえず彼女は住人一人ひとりの部屋を回って挨拶をしていこうと考えていた。

彼女の住む部屋は202号室。

まずは隣人の201号室の部屋へと出向いた。

ドアの傍に設置されているインターホンを押し、それに向かって声をかける。

「あのお、すみませ〜ん……。隣に新しく越してきた者ですが……」

緊張した様子を必死に隠そうとするのも隠しながら、鈴は相手側の反応を待った。

返ってきた声は男性のものだった。

よく通る、張りのある声だ。

「ああ、ちょっと待つネ」

声の後には、なにやら玄関へ向かってくるらしき足音が聞こえてきた。

ガチャリ……。音をたて、ドアから出てきた人物はその顔立ちからすれば東洋人である事がわかった。

「あ、どうも……。私は日本から来ました増田、と申します」

おずおずと頭を下げ、自己紹介をする鈴を見ると、その男性のほうも名乗ってきた。

「ワタシ、中国から来た王・李^{ワシ}^リいうね。ま、何かわからない事あつ

たらなんでもワタシに聞くよろし」

短い黒髪と堀の浅い顔立ちが印象的な彼は、親切にもそういつてくれた。

「ありがとうございます、では・・・」

鈴は内心でホッとしていた。

（よかった・・・とりあえず、お隣のお部屋の王さんはいい人そうだわ）

お国柄の違いのせいで上手くやっていけるかどうか不安だった鈴は、本人からすれば何気なくいったであろう王の言葉に安心していただった。

「さて・・・じゃあ次は203号室ね」

ここでも同じようにして、インターホーンを押して声をかける。

「おはようございます・・・新しく越してきた者ですが・・・」

「少し待ってください」

今度は女性の声だった。

スタスタと玄関に向かってくると思われる足音を響かせ、声の主はドアを開けた。

体系はやや小柄で、長いブロンドを結っている。

目は薄い翠色だ。

「どうも、新しくこのアパートに住まわせていただきます、増田という者です・・・どうぞよろしくおねがいします」

その女性は先ほどの王とは違って、すぐに反応を返してこなかった。しばらく間をおいて、彼女は口を開いた。

「貴方・・・日本人よね？」

その言葉に、鈴は頷く。

さらに彼女の質問は続いた。

「・・・マスダ、ってファーストネームでしょ？フルネームは？」

「あ、増田鈴・・・リン・マスダです」

「そう、じゃあリンでいいわね？私はイギリス出身のロビン・ハミ

ルトンよ」

彼女・・・ロビンは、鈴に握手の手を差し伸べてきてくれた。

鈴のほうは照れくさそうに彼女と握手を交わすと、やはりひそかに安堵していた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5676h/>

NYアパートのご近所事情

2010年10月15日14時36分発行